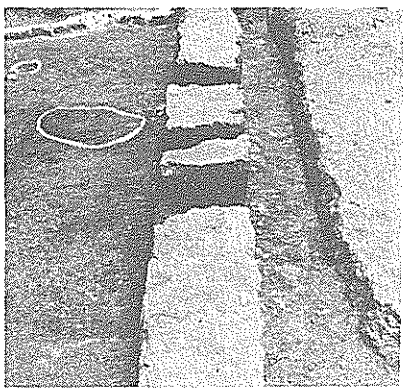




木棺墓遺構などを発見 岡豊町小蓮の遺跡

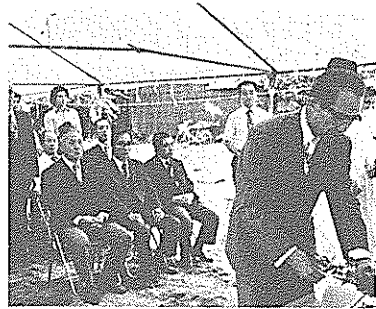
市教育委員会が岡豊町小蓮で遺跡の発掘調査をすすめていた七月二十六日、弥生時代中期末の縦穴式住居跡（狭間古墳）と四世紀末から五世紀の頃のものとみられる古墳の複合遺跡（狭間遺跡）を発見、この円墳から粘土床で箱型の木棺墓遺構三基を出しました。この木棺墓遺構は県下では初めての発見となり貴重なもので、標高八十四メートルの山の高地性集落は香賀平野では今回が最初の発見となり注目されています。

発掘場所は、県立希望が丘学園の北方の山で、昭和四十二年に発掘された舟岩古墳群のすぐそば。現場付近がこんもり盛り上った雑木林であったところから何らかの古墳があるのではないかと考えられていたものです。二十日からの発掘調査では、岡本健児高知女子

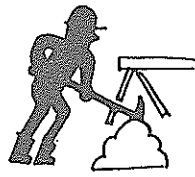


大教授や広田典夫高知ろう学校教諭のほか地主の筒井照義さんらも協力して作業をすすめていました。この発掘調査の結果によると、直径約十二メートルの円墳からは三基の木棺墓の遺構が出し、東側から順に、一号棺（幅六十三センチ、長さ二・五メートル）、二号棺（幅三十四センチ、長さ二・二メートル）、三号棺（幅四十五センチ、長さ二・五メートル）と名付けられました。これらの木棺は約二十センチの赤土の上に約五センチの粘土を敷き、その上に組み立てた式のものに置かれていました。ここでは人骨や副葬品は発見されていませんが、小型の二号棺は副葬品入れの可能性が強く、当時の土地の小首

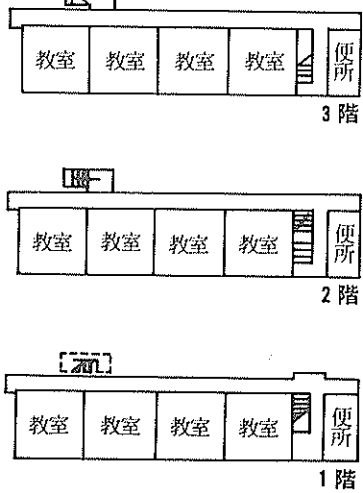
大篠小



一階から三階全てが普通教室で、十二教室。
この早期建築により、念願の教室難が解消されます。



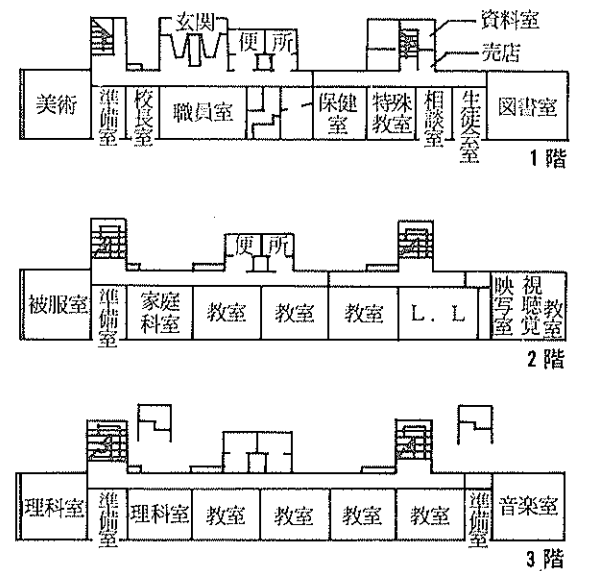
大篠小学校



香南中一 念願の改築工事着工

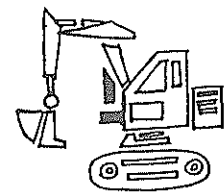


香南中学校



改築工事 香南中学校

指名競争入札により、二億五千六百万円で、岡部建設と契約。鉄筋コンクリート建て三階で、延べ面積千六百二十一平方メートル。一階建築面積は一千九十六平方メートル、二階建築面積は七百六十一平方メートル、三階建築面積は七百六十四平方メートルとなっている。一階は職員室のほかに、美術教室、保健室、図書室など。二階には家庭科室、視聴覚教室、被服室、映写室など。また、三階には理科室、音楽室など。普通教室は七教室で、この他に



技術棟があり、そこには木工室などが準備されています。

随意契約により、一億二千九百六十九万五千円で、西田建設と契約。鉄筋コンクリート建て三階で、

改築工事 大篠小学校

延べ面積一千三百三十五・九平方メートル。一階建築面積は四百四十六・七平方メートル、二階、三階建築面積は四百四十四・六平方メートルとなっています。

大篠小学校と香南中学校の改築工事の起工式が、七月十日、十二日の両日それぞれ現地で行われ、小笠原市長、橋本議長、門田教育長ら関係者多数が出席しました。

この起工式は、工事の安全を祈って行われたもので、大篠小学校からは六年生の岡本拓也君が、香南中学校からは三年生の溝淵泰志君が代表して玉ぐしの奉奠を行いました。

大篠小学校（宮嶋夫校長）は、現在木造二階建て校舎四棟で、老朽化がひどく、また児童の数が十年あまりで約四百人も増え、授業に支障をきたしてきたことから改築工事となったもの。

改築は三年計画で行われ、まず第一期工事として来年二月末までの予定で現校舎北側に、鉄筋コンクリート三階建てを一棟建設し、引き続き来年度以降の予定で体育館や給食センターを建設するものとなっています。

また香南中学校（北村登志忠校長）は、現校舎が危険校舎に指定されていたところから改築となるもので、来年十月までの予定で現校舎北側に、鉄筋コンクリート三階建てを建設するものとなっています。